

表6-3 テーマ「見守りのためのテクニック」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野市	泉南市
見守りのためのテクニック	<p>見守り頻度は月2回</p> <p>見守り基準は、月2回。</p> <p>訪問頻度は、月2回。</p> <p>見守り頻度を経験により、決める。</p>	<p>長い支援の積み重ねにより関係づくりができる</p> <p>熱心に活動してくれる姿をみていてくれたら、心を開いてくれる。</p> <p>「こんにちは、いかがですか」とそういうことを日常的に言って、協力的になってもらう。</p> <p>高齢者に声をかけるようにしていたら、「〇〇さん」と言ってくれるようになるんや。</p>
	<p>見守り台帳や名簿を作成し、集計する</p> <p>見守り台帳付け、町会毎に集計する。</p> <p>見守り基準、ウォッチング集計表をつくる。</p> <p>見守り対象者の介護度やあんしんシステムの有無の親族の名簿を作成している。</p>	<p>独居の方全員に声をかけています、と言ったら、「ご苦労さん」と受け入れてくれた。</p> <p>ちゃんと挨拶するのでも1つ1つの積み重ねだと思う。</p> <p>名前を覚えて、細かいことでも相談にのることで、今はドアを開けてくれる。</p> <p>長いこと自治会長もしているの、この人に言えば何とかしてくれるのではないかと、思われている。</p> <p>地域で声をかけたら答えてくれるのは僕らだからこそと思う。</p>
	<p>自発的な情報収集をし情報を共有する。</p> <p>出かけて自発的に情報収集する。</p> <p>見守りを民生委員の義務化とする。</p>	<p>高齢者と長い間付き合いしていると見守りをしやすい</p> <p>ずーっとの付き合いが大事よね。</p> <p>若い時からの付き合いがある。</p> <p>見守っている高齢者とは、もともと家族ぐるみの付き合い。</p> <p>娘が子供時代の付き合いがあったので、ときどき様子を見に行っている。</p> <p>ここに来たときは、いろいろ頼ったりした。</p> <p>気心知れている人には、見守りをしやすい。</p> <p>「あの人が行ってるんなら行こう」という人間関係が大切。近所付き合い、つながり。</p>
	<p>情報源を明らかにしない</p> <p>情報の出所を明らかにしない。地域福祉の調査として入る。</p>	<p>管理組合の名簿から見守り対象者を把握</p> <p>管理組合に提出した個人情報で、把握できるものは把握している。</p> <p>高齢者への理解を深めることが必要</p> <p>「組織」と言うと高齢者はひいてしまう。</p> <p>高齢者の動きが鈍くなっていることを理解しないとイケない。</p>

(5) 見守りのための組織作り

テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリとコードの一覧については、表7に示すとおりである。両地域に共通するカテゴリは「既存組織があり、見守りに活用しやすい」「行政と連携をとる必要がある」「住民組織間で情報を共有する」「地域包括支援センターは連携しやすい」「地域の絆の強さ」であった。

羽曳野市からは、「住民に地域の情報を伝える」「専門職別に活動形態が異なる」「民生委員の職務は見守り」「民生委員の職務に協力してもらう」「民生委員の職務内容の周知が必要」「見守りをシステム化する」「リーダーがいれば、地域はまとまる」「近隣住民の見守りは孤立死予防に役立つ」「見守りで高齢者に役割を持たせる」「近隣住民や子供が見守るべき」のカテゴリが見られた。一方、泉南市で特徴的にみられたカテゴリとしては「地域包括支援センターの周知が必要」「地域包括支援センターと情報を共有したい」「組織作りの過程での行政のバックアップ」「リーダーとバックアップする人がいれば組織は大きくなる」「組織づくりの核が大切」「男性に支援者になってもらう」「転入者が多く、協力し合う思いがあった」「子育て時の付き合いが地域づくりに生かされている」「近隣住民が気にかけてくれる」「近所同士で助け合いたい」が挙げられた。

表7-1 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野市	泉南市
見守りのための組織作り	<p>既存組織があり、見守りに活用しやすい</p> <p>専門職の話を開いたり、アドバイスをもらえることが会議のメリット。</p> <p>雅びのメリット。他職が即、会話できる。</p> <p>雅びのメリット。横の連携がとれる。</p> <p>雅びのネットワークで無駄なことが整理された雅びにおける専門職の役割は、専門職の意見が聞けること。</p>	<p>既存組織があり、見守りに活用しやすい</p> <p>「この組織をつぶしたらあかん」という砂川の地域の人にあるからうまくいっている。</p> <p>砂川地区には、元々地域の組織があった。</p> <p>砂川には、しっかりした組織があったので、立ち上がりがよかった。</p>
	<p>行政と連携をとる必要がある</p> <p>何かあった時のみ、役所と連携。</p> <p>行政の中で横の連携を密にして欲しい。</p> <p>行政への要望。情報共有し、うちは知らんと言わないで欲しい。</p> <p>行政からの説明が不十分。</p>	<p>行政と連携をとる必要がある</p> <p>行政の担当者が各地区を把握しておいてほしい。</p> <p>行政と住民との情報の共有が必要。</p> <p>役所は生年月日がわかるのだから、高齢者の実態を明らかにしてほしい。</p>

表7-2 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野市	泉南市
見守りのための組織作り	<p>住民組織間で情報を共有する</p> <p>何かあったら議事録を回覧版で回す。</p> <p>町会と民生委員との連携がとれてきた。</p> <p>各町会の連携を密にしたい。 （見守り）活動において、町会の理解が重要。 町会内での連携（顔見知りの人は、声をかけてくる）。 区長としての町会での取り組み。 孤立死発生時、区長との連携。 民生だけでは何もできず、区長に出てきてもらうことは必要。 民生委員と区長との連携の方法。話し合いをして垣根をとる。 対象者との関わり方について話し合いによる情報交換をする。 見守りケースの周知をし、情報を共有する。 区長会に民生委員も出てきてもらい、お互いに相互理解できるようにしたい。 区長から地図をもらって、色分けをする。 自治体と民生委員との情報共有している。 自治会の知らない情報は、民生委員も知らない。</p>	<p>住民組織間で情報を共有する</p> <p>区長さんを通じて、各自治体にお願ひすれば高齢者のことを把握できる。 自治会の班長が知っていれば、サービスにつなげやすい。</p>
	<p>住民に地域の情報を伝える</p> <p>雅びの周知。（広報を年2回配布） 独自の広報誌を作成している。</p>	

表7-3 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野市	泉南市
見守りのための組織作り	<p>地域包括支援センターは連携しやすい</p> <p>夫の入院後妻がパニック状態になり食事も食べていなかったため、包括にきてもらった。</p>	<p>地域包括支援センターは連携しやすい</p> <p>役所より包括に電話した方がすぐ動いてくれる。</p> <p>包括はすぐ動いてくれるのでありがたい。</p> <p>今は「包括に（電話）したらええわ」と思う。</p> <p>個別援助ができていないので、包括に相談をした。</p> <p>包括の職員がサロンに来ているので、高齢者が直接相談しやすい。</p> <p>何か発言すればすぐ動いてくれる、地域包括支援センター。サロンに来てくれているので、包括の人に言いやすい。</p> <p>開業医から連絡があって、包括と連携して病院に搬送した。</p> <p>包括がなかったら（見守りネットワークも）してなかったかもしれない。</p> <p>包括が中心になり、ボランティアを募集して見守り。</p>
		<p>地域包括支援センターの周知が必要</p> <p>包括の存在をもっと知らせた方がよい。</p> <p>包括がこんなんしますよ、というのを周知させていければよい。</p>
	<p>専門職別に活動形態が異なる</p> <p>薬剤師会は、校区にまたがって広く活動。</p> <p>接骨医は意識高いが、会議には来ない。</p>	<p>地域包括支援センターと情報を共有したい</p> <p>住民や包括のそれぞれ知っている情報をすりあわせるのが重要。</p>
<p>民生委員の職務は見守り</p> <p>見守りは雅びでなく、民生委員の活動。</p> <p>地域見守り隊を作り、民生委員の見守りを代行している地域もある。</p>		

表7-4 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野市	泉南市
見守りのための組織作り	<p>民生委員の職務に協力してもらう</p> <p>家族が民生委員との連携をとって欲しい。</p> <p>民生委員のサブが欲しい。</p> <p>住民に役割をもたせ、民生委員をサポートしてもらう。</p>	
	<p>民生委員の職務内容の周知が必要</p> <p>民生委員（区長）の業務範囲を理解してもらう。</p> <p>ヘルパーと民生委員の役割が混同されている。</p> <p>守秘義務があるため民生委員の役割は、協力員で補えない。</p>	
	<p>見守りをシステム化する</p> <p>新しいものを広く深くやっていくことで、呑みこんで、消化して身につく。</p> <p>見守り内容をシステム化し、全地区を同じレベルに並べてやっていく。</p> <p>物事を進める時は、まず目標・目的を明確にし、プロセスを踏まえて行う。</p>	
		<p>組織作りの過程での行政のバックアップ</p> <p>高齢者の組織を府に登録していた。</p> <p>区長さんの声がかかりで、小地域ネットワークを田口に立ち上げた。</p> <p>個別が必要ではないかと思っているところに、市からの話に便乗した。</p>
	<p>リーダーがいれば、地域はまとまる</p> <p>リーダーとなる人がいることで、地域はまとまる。</p>	<p>リーダーとバックアップする人がいれば組織は大きくなる</p> <p>リーダーシップを発揮できる人とそれに協調する人がいれば、トントンと大きくなる。</p> <p>同じ人が役をしているので、フーカーになる。</p> <p>組織づくりの核が大切</p> <p>「この会が長く続くために、あなたの力が欲しい」と言って役員に頼んでいる。</p> <p>組織をする核として、女性の民生委員がいた。</p>

表7-5 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野市	泉南市
見守りのための組織作り		<p>男性に支援者になってもらう</p> <p>男性が役員をしていると男性が集まる。</p> <p>男性には、過去の経歴だけでなく、「何かしてあげよう」という気持ちが大切。</p> <p>男性は、持ち上げないといけない。</p> <p>男性は、「また1年自分がやります」とは言い出せない。</p>
	<p>地域の絆の強さ</p> <p>町会の集まりに全て来てくれる。</p> <p>何かあれば、他の役の人が助けてくれる。</p> <p>人口が少なくても、何でもやっつけていける地域。</p> <p>地域がまとまっている。</p>	<p>地域の絆の強さ</p> <p>何か行事をするというても、協力的。</p> <p>同じ年代が多い地域。</p> <p>一戸建てに住んでいる人は定住してはる。</p>
		<p>転入者が多く、協力し合う思いがあった</p> <p>九州や四国の出身者も多い。</p> <p>やっと手に入れたマイホームで、ひとつの町として盛り上げようという思いもあった。</p> <p>住み始めた時「よろしくな」と言って、近所付き合いが始まった。</p> <p>入ってきたときから親子みたいな付き合いがある。</p> <p>開発されたときから住んでいる人がほとんど。</p> <p>他市から同じ年代の人が集まってきているので、協力しあってきた。</p> <p>他市からきた人ばかりなので、仲良くしないと淋しかった。</p> <p>子育て時の付き合いが地域づくりに生かされている</p> <p>子育ての時のお母さん同士のつながりがある</p> <p>子ども会でお母さん同士の友達ができて、続いている。</p> <p>子育ての時から皆と馴染みで、それが今高齢化している子ども会つくるう、と団結しやすかった。</p> <p>子供の成長とともに地域の役をさまざま引受けてきた</p> <p>子育てが終わって、地域に目が向くようになった。</p>

表7-6 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野市	泉南市
見守りのための組織作り	<p>近隣住民の見守りは孤立死予防に役立つ</p> <p>孤立死予防のため民生委員と近所住民の見守り</p> <p>地域で住民間の見守りが役に立つ。</p> <p>この頃おじいちゃん出てきてへんけどどうかなと近所の人が入っている。</p>	<p>近隣住民が気にかけてくれる</p> <p>戸が開いているから閉めといて、と近所の人に頼めるのはいい。</p> <p>隣の人が見守りをしている。</p> <p>「ちょっとお願いできるかしら」と気軽に頼めるご近所のつながりが大事。</p>
	<p>見守りで高齢者に役割を持たせる</p> <p>住民同志に見守りを依頼し、高齢者に役割を持たせる。</p>	<p>見守る必要のある高齢者がいたら、隣に声をかけて、「悪いけどお願いします」と。</p> <p>「みんな元気？どうしているんやろ」とお互い気にはしている。</p>
		<p>近所同士なら、気軽に教室に行ける。</p> <p>向こう三軒両隣、気安い関係になる。</p> <p>気にかけてくれる近所の人がいるから、暮らしていける。</p> <p>本人から写真とりに行くから、一緒に行って欲しいと言われた。</p> <p>連絡先を聞き、何かあったら対応できるように連携する。</p> <p>ボランティアだけでなく、隣近所の人に協力してもらって見守ってもらう。</p> <p>「うちの近所にこんな人いてな、いっぺんみたってや」という話になる。</p>
	<p>近隣住民や子どもが見守るべき</p> <p>役所よりも、近所の住民が見守るべき。</p> <p>子どもが見守るべき。</p>	<p>近所同士で助け合いたい</p> <p>高齢者同士でも元気な方は、お隣とかの面倒をみる。</p> <p>近所同士助け合うという関係はもった方がよい</p> <p>住民全体が助け合いという気持ちを復活させたい。</p> <p>災害にしても頼れるのは隣近所になるだろう。</p> <p>お隣りの見守りもできるという講演会もあるとよい。</p> <p>役の人をお願いできる地域にしていきたい。</p>

(6) 見守り困難な点

テーマ「見守り困難な点」に関するカテゴリとコードの一覧については、表8に示すとおりである。両地域に共通するカテゴリは「個人情報が入手できない」「集合住宅は情報把握が困難」「独自の対策をしたいが困難」「やる気のある担い手がいない」であった。

羽曳野市からは「区長との情報共有が難しい」「支援センターから情報共有されない」「女性は男性の見守りに抵抗がある」「民生委員になりたがる人がいない」「町会に入らない住民が多く、活動低下している」のカテゴリが見られた。一方、泉南市で特徴的にみられたカテゴリとしては「家の中まで入り込むことが難しい」「誰が見守り対象者かわからない」「責任が重く人が少ないので、仕事が多く割に合わない」「自治会に入るのは6割」「いろいろな意見を持っている人がおり、地域活動が困難」「転出入が多いとネットワークを作りにくい」が挙げられた。

表8-1 テーマ「見守り困難な点」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野市	泉南市
見守り困難な点	個人情報が入手できない 守秘義務の壁があり、情報が入手できない。 どこまで話してもらえているのかわからない どこにだれが住んでいるかの情報が欲しい。	個人情報が入手できない 民生委員は市の住基ネットは見れない。 近所に引っ越しの言いおきをしてくれたら把握できる。 「どこか行きはったん」と聞いて初めて高齢者の引っ越しを知る。
		家の中まで入り込むことが難しい 立ち入りすぎたら相手に嫌がられるのではないかと、という気持ちがある。 挨拶はしても、家の中に入り込めない。
		誰が見守り対象者かわからない 気になる人がみえていない。 本当に困っている人の実態が見えてこない。
	区長との情報共有が難しい 自治会と情報交換できない。 区長と民生委員の顔合わせの機会が減ってる 名簿は民生委員が個人で作る。 任期短く、連携ができない区長。 区長が動かないので、住民が町会のイベントに参加できない。	
	支援センターから情報提供されない 入所後、支援センターからの連絡はない。	
	集合住宅は情報把握が困難 集合住宅のドアから中がわからない。 女性は男性の見守りに抵抗がある 女性が男性の高齢者の見守りに行くのは抵抗がある。	集合住宅は情報把握が困難 マンションだと把握しづらい。

表8-2 テーマ「見守り困難な点」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野市	泉南市
見守り 困難な 点	<p>独自の対策をしたいが困難</p> <p>他でできないことをしたいが、難しい。</p> <p>地域福祉をまともに進むほど、賠償、訴訟などの暗礁にぶつかる。</p> <p>独居老人のマーキングをしたいが、難しい。</p>	<p>独自の対策をしたいが困難</p> <p>独自の対策をしたいが、困難。</p>
	<p>やる気のある担い手がない</p> <p>次の世代を育成することから課題。</p> <p>他の団体の中には、無関心な人もいる。</p>	<p>やる気のある担い手がない</p> <p>地域や社会のために一肌脱ぐ人が少なくなってきている。</p> <p>仕事があるので、若いボランティアが入ってきてくれない。</p> <p>若い人が少なくなって継いでくれる人がいないので、できる間はボランティアをする。</p>
	<p>民生委員になりたがる人がいない</p> <p>民生委員の欠員がいる。</p> <p>民生委員になりたがる人がいない。</p>	<p>責任が重く人が少ないので、仕事が多く割に合わない</p> <p>地域のことをやる人の数が少なくなってきているから、一手にあれもこれもになる。</p> <p>地域の役員は、責任が重くて、割に合わない。</p> <p>ずっと色んな役をしているので、民生委員を頼みにきたと思う。</p> <p>(お年寄りばかりに付き合ってもらえない。)</p>
	<p>町会に入らない住民が多く、活動低下している</p> <p>地域組織の脆弱化により活動が低下。</p> <p>町会の催しがやりにくくなっている現状。</p> <p>町会に入らない住民が多い。</p> <p>兼務で組織を動かすことは困難。</p>	<p>自治会に入るのは6割</p> <p>自治会に入っているのは、6割くらい。</p> <p>いろいろな意見を持っている人がおり、地域活動が困難</p> <p>葬式の炊き出しを頼んでも「私はイヤだから」とはっきり断られる。</p> <p>いろんな意見をもっている人がいるので、やりにくい</p> <p>近所付き合いがわずらわしいからマンションに入ったのに、なぜ自治会に入らなければいけないのか、という声もあった。</p> <p>自治会に入るか、どうかも損得でモノを言う。</p> <p>転出入が多いとネットワークが作りにくい</p> <p>転入出が多くて、ネットワークをつくりにくい。</p> <p>自治会に入ってくれないのは転入出が関係している。</p> <p>賃貸で入っている人は、自治会にも入ってくれない。</p> <p>200～300人が10年間に出入りしており、把握は難しい。</p>

2) 見守り組織づくりを支援してきた専門職へのインタビューの質的分析結果

泉南市と羽曳野市とそれぞれ地域別にみた見守り組織づくりを支援してきた専門職へのインタビューから得られた質的分析についてのテーマとカテゴリを表9に示す。

表9.地域包括支援センター・在宅介護支援センター職員に対するインタビューから得られた質的分析の概要

テーマ	カテゴリ	
	羽曳野	泉南
見守りメンバーのバックグラウンド	<p>民生委員はそれぞれ見守りのノウハウを持っている</p> <p>住民に自分で率先して動く人がいて見守ることができる</p> <p>民生委員同士で協力している</p>	<p>民生委員は包括に分からない雰囲気をつかむ</p> <p>住民の声でネットワークができた</p>
見守り対象となる高齢者	<p>家族や近所とつながりがない高齢者</p> <p>介入を拒否する高齢者</p> <p>ごみ屋敷に住む高齢者</p> <p>家族や近所が施設や病院を希望する高齢者</p> <p>受診拒否する高齢者</p> <p>生活環境が保てない高齢者</p> <p>精神症状がある高齢者</p> <p>認知症がある高齢者</p>	<p>家族や近所とつながりがない高齢者</p> <p>介入を拒否する高齢者</p> <p>ごみ屋敷に住む高齢者</p> <p>低所得の高齢者</p> <p>介護者が息子である高齢者</p> <p>働いていない子どもと同居の高齢者</p>
高齢者への支援	<p>頻回に関わり信頼関係を作る</p> <p>住民や見守りメンバーから情報をもらい支援につなげる</p> <p>本人を受け止めて信頼関係を作る</p> <p>多くの職種が関わって支援する</p> <p>関わりが深まることによってサービス導入につなげる</p> <p>家族との関わり次第でうまくいくこともある</p>	<p>見守りネットワークを高齢者に知ってもらう</p> <p>住民や見守りメンバーから情報をもらい、支援につなげる</p> <p>見守りのサインとしての生活ぶりを把握して介入する</p> <p>本人を受け止めて信頼関係を作る</p>
組織・地域への支援	<p>メンバーと顔をつなぎ、連絡をもらえる関係を作っておく</p> <p>見守り組織が出来上がっている</p> <p>組織化や社会資源の開発が重要である</p> <p>個別対応にメンバーが動くように関わる</p>	<p>メンバーと顔をつなぎ、連絡をもらえる関係を作っておく</p> <p>見守り組織が十分ではない</p> <p>組織化や社会資源の開発が重要である</p> <p>個別対応にメンバーと一緒に動く</p>
支援の困難な点	<p>情報把握後どうするのか難しさがある</p> <p>支援する機関に高齢者はアクセスしにくい</p> <p>高齢者が支援の必要性を感じず介入できない</p> <p>家族と共通認識が持てないとうまくいかない</p> <p>独居である限り孤立死予防は難しい</p>	<p>情報を共有できない</p> <p>高齢者や家族が支援者に問題を隠す</p> <p>集合住宅人はつながりが希薄で見守りがいきわたらない</p> <p>見えない虐待は対処しにくい</p> <p>高齢者が支援の必要性を感じず介入できない</p> <p>支援が必要な高齢者情報を聞くと近隣住民が不安になる</p> <p>活動が不活発な地域は組織がない</p> <p>独居である限り孤立死予防は難しい</p>

(1) 見守りメンバーのバックグラウンド

テーマ「見守りメンバーのバックグラウンド」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 10 に示すとおりである。

羽曳野市に特徴的にみられたカテゴリとしては「民生委員はそれぞれ見守りのノウハウを持っている」「住民に自分で率先して動く人がいて見守ることができる」「民生委員同士で協力している」が挙げられた。泉南市では「民生委員は包括に分からない雰囲気をつかむ」「住民の声でネットワークができた」というカテゴリがみられた。

表 10. テーマ「見守りメンバーのバックグラウンド」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野	泉南
見守りメンバーのバックグラウンド	<p>民生委員の見守りのノウハウがある</p> <p>民生委員の長年のノウハウによる見守り基準がある</p> <p>緩やかな見守りとして、高齢者が自分で動けるうちは外で見かけたら声をかける</p> <p>見守りのインターバルを決めている</p> <p>外からの見守り項目として、郵便、洗濯物、照明の有無、雨戸、ごみ出し、花の水やり等がある</p>	<p>民生委員は包括に分からない雰囲気をつかむ</p> <p>民生委員や地区福祉委員は包括職員にはわからない雰囲気をつかんで情報をくれる</p>
	<p>自分で率先して動く人がいて見守ることができる</p> <p>自分で弱者見守りのたたき台を作り、他の方に周知伝達と意向の調整を図る</p> <p>まず自分が率先して動いて何かの形を打ち出すのを労を惜しまずやってくれる</p> <p>福祉に熱意のある人がいると見守りも進む</p> <p>高齢者に人間らしい暮らしを提供できたのは民生委員の積み上げである</p> <p>見守りのスパンは決まっていなかったが気になる人がいたら民生委員の手の空いている人が行く</p> <p>民生委員には自分たちの地域は自分たちが守ってきたという自負心がある</p>	<p>住民の声でネットワークができた</p> <p>住民からの声が上がってネットワークができた</p> <p>使命感のある方が沢山いたので声が上がってきた</p> <p>市が地域パワーをつけるために見守りネットワーク作りの啓発をしていた</p> <p>「週1くらいならやってもいい」と住民から言われた</p> <p>小地域ネットワーク委員の方が個別支援でできていないことをやりたいと申し出てくれた</p> <p>民生委員の体制や小地域ネットワークの基盤がこの地域にできていた</p> <p>市のネットワークを作ろうという話が今しようとしていることだったのでそれに乗った</p> <p>活動が活発なB地域はいい格好しないでトライする</p> <p>活動が活発なC地域はPTAからのつきあいで信頼関係やチームワークができています</p>
	<p>民生委員同士で協力している</p> <p>民生委員同士でスクラムを組んでいる</p>	

(2) 見守り対象となる高齢者

テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 11-1、表 11-2 に示すとおりである。両地域に共通するカテゴリとして「家族や近所とつながりがない高齢者」「介入を拒否する高齢者」「ごみ屋敷に住む高齢者」がみられた。

羽曳野市に特徴的にみられたカテゴリとしては「家族や近所が施設や病院を希望する高齢者」「受診拒否する高齢者」「生活環境が保てない高齢者」「精神症状がある高齢者」「認知症がある高齢者」が挙げられた。泉南市では「低所得の高齢者」「介護者が息子である高齢者」「働いていない子どもと同居の高齢者」というカテゴリがみられた。

表 11-1.見守り対象となる高齢者

テーマ	羽曳野	泉南
見守り対象となる高齢者	家族や近所とつながりのない高齢者 近所の人とつながりを持たず孤立し状況がわからない 緊急時の連絡先が不明である	家族や近所とつながりのない高齢者 家からも近所からも見放されている人が必ずいる 詐欺に引っ掛かる人は家に閉じこもって周りの情報が入らない人が多い
	介入を拒否する高齢者 「誰の世話にもなりたくない、入ってきてくれるな」という	介入を拒否する高齢者 「死のうが生きようが放っておいておいてくれ」という
	ごみ屋敷に住む高齢者 ごみ屋敷状態で転倒しやすい環境、本人の身体状態も廃用で動かなくなった	ごみ屋敷に住む高齢者 ごみ屋敷になっている家は気にしておかないといけない
	家族や近所が施設や病院を希望する高齢者 近所や家族も施設か病院で診てもらうのが希望だったことが関わりのきっかけであった	
	受診拒否する高齢者 医師への信頼が低く受診しない	
	生活環境が保てない高齢者 動けず食事、保清もできず困っていた 転倒から腰痛、失禁、起き上がり困難で相談を受けた 失禁、便も新聞紙にくるんで放置していた 認知症機能が下がり服装も入浴もトイレもひどい人についての連絡が入った	
	精神症状がある高齢者 昼夜逆転、妄想、幻聴、攻撃性があり認知症も進んだ お酒ばかりを飲んでいる	
	認知症がある高齢者 認知症が進んで仕事ができなくなった	

<p>認知機能低下が進み家から出ている姿を見かけなくなった</p> <p>認知症が進み会食会に参加しなくなり閉じこもり、被害妄想的になった</p>	
<p>介護認定の意見書を書いてもらうという行為が理解できない</p>	

表 11-2. テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野	泉南
見守り対象となる高齢者		<p>低所得の高齢者</p> <p>所得の低い人にはケア資源を作りにくい</p>
		<p>介護者が息子である高齢者</p> <p>息子が年金を持っていて生活が苦しくなっても母親は息子を訴えない</p> <p>親から分離してお金がなくなった息子をどう支援するかという問題がある</p> <p>独身の息子が仕事辞めて親を介護しているのが一番心配</p> <p>認知症の母を息子が虐待する</p> <p>息子はあまり危機感を感じていない</p> <p>キーパーソンが息子だと介入しづらい</p> <p>息子が高齢者の生活保護費をあてにしている</p> <p>未婚の息子による経済的虐待があった</p> <p>虐待事例で息子が拒否すると強制はできない</p>
		<p>働いていない子どもと同居の高齢者</p> <p>働いていない子どもが高齢者の年金で暮らしている</p> <p>ケースは周りを受け入れない</p> <p>しっかりしていない子どもとの同居世帯がとりこぼれるのが怖い</p> <p>子どもと同居しているとその安心感で観察しないのが怖い</p>

(3) 高齢者への支援

テーマ「高齢者への支援」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 12-1、表 12-2、表 12-3 に示すとおりである。両地域に共通するカテゴリとして「住民や見守りメンバーから情報をもらい、支援につなげる」「本人を受け止めて信頼関係を作る」がみられた。

羽曳野市に特徴的にみられたカテゴリとしては「頻回に関わり信頼関係を作る」「多くの職種が関わって支援する」「関わりが深まることによってサービス導入につなげる」「家族との関わり次

第でうまくいくこともある」が挙げられた。泉南市では「見守りネットワークを高齢者に知ってもらう」「見守りのサインとしての生活ぶりを把握して介入する」というカテゴリがみられた。

表 12-1.テーマ「高齢者への支援」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野	泉南
高齢者への支援		<p>見守りネットワークを高齢者に知ってもらう</p> <p>メンバーと一緒に民生委員の名前を書いたものを高齢者の電話の前に貼った</p> <p>ネットワークのチラシを張ることで心の保険になっている</p>
	<p>頻回に関わり信頼関係を作る</p> <p>対象者の様子を見ながら訪問し、見守りながら話をすすめていく</p> <p>頻回に、ほとんど毎日状態確認を行った</p> <p>何らかの形で毎日アプローチし孤独死が防げた</p> <p>片付けなどさせてもらいながら近づき何かあったらすぐ対応できる状態にしていた</p> <p>毎日訪問していると拒否していた人も受け入れてくれるようになる</p> <p>毎日包括が訪問して信頼関係を作りいよいよのときは病院に連れていく</p> <p>訪問で様子を見ていき救急車を呼んで受診した</p>	
	<p>住民や見守りメンバーから情報をもらい支援につなげる</p> <p>応答がないことで地域の人が大家さんに連絡を取り発見された</p> <p>民生委員が繰り返し声かけを行うことで相談できる関係ができ入院できた</p> <p>民生委員が毎日関わり孤立死を早期発見できた</p> <p>民生委員が普段の活動で動けなくなった人を発見してくれた</p> <p>民生委員からの声でサービス担当者会議を持ち特養入所につなげた</p> <p>民生委員がキャッチした情報で包括に相談があり支援につながった</p> <p>見守りネットワークの具体的な仕組みとして民生委員から情報をもらうことが多い</p> <p>民生委員から在介に相談があり家族へ連絡してサービス導入できた</p>	<p>住民や見守りメンバーから情報をもらい、支援につなげる</p> <p>配偶者が亡くなってから気にかけて住民がよく見守りに行ってくれた</p> <p>住民が早期に発見してタイミングよく受診と治療につながった</p> <p>地域の人が声をかけ続けることで当事者も変わっていき地域が認知症を理解して見守ってくれた</p> <p>開業医からネットワークメンバーに連絡が入り動けない状態だった高齢者を発見できた</p> <p>閉じこもり予防の啓発をしたら情報をもらえるようになった</p> <p>福祉委員や民生委員の人が各自得た情報を教室が始まる前に教えてくれる</p> <p>サロンの前に直接相談される</p> <p>実態把握調査の前にメンバーから情報をもらう</p>

表 12-2 .テーマ「高齢者への支援」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野	泉南
高齢者への支援	<p>住民や見守りメンバーから情報をもらい、支援につなげる(つづき)</p> <p>民生委員が把握した事例から動く</p> <p>衰弱死しそうなケースを包括の関わりで見ることができた</p>	<p>住民や見守りメンバーから情報をもらい、支援につなげる(つづき)</p>
	<p>民生委員から社協のCSに相談依頼が行って孤独死を防いだ</p> <p>誰も関わりが持たず家族の入院先のSWが包括に相談するよう助言した</p> <p>いろんな人が関わる中で虐待と孤独死が防げた</p>	
	<p>本人を受け止めて信頼関係を作る</p> <p>在宅の今の生活を受け止め少しでも保障しながら信頼関係を作る</p> <p>ごり押ししても無理だから本人をそのまま受け止める</p> <p>対象者のニーズを知ろうとする関わりが大切である</p>	<p>本人を受け止めて信頼関係を作る</p> <p>「どんなことでも相談してください」といって、「なんでこんなことまで」と思ふような内容の相談ごとの積み重ね</p>
<p>多くの職種が関わって支援する</p> <p>1ヶ月間民生委員、近隣、包括、保健センター、在介センターが毎日見守っている</p> <p>他職種で見守りを開始し巡回訪問して受診につなげていった</p> <p>医師から情報が入り他職種が連携して見守り緊急時に医療につながった</p>		

	民生委員と警察、他の機関とのやりとりもダイレクトに円滑に進めている ネットワークで顔見知りになって医師会の協力が得られるようになった
--	---

表 12-3.テーマ「高齢者への支援」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野	泉南
高齢者への支援	多くの職種が関わって支援する(つづき) 包括と民生委員と一緒に訪問し支援につながった 「この人を帰らせていいだろうか」と病院の医師から連絡が入った 本人と主治医と包括の話し合いで入院につながった	
	関わりが深まることによってサービス導入につなげる 配食サービスを導入することをきっかけにほかのサービスが導入できる 支援することによってディサービスを導入できた 食が安定すると攻撃性も和らぎ生活環境が整えられる ケースの要求に対応しつつ介護保険未認定からサービスにつなげることを考えた	
	家族との関わり次第でうまくいくこともある 家族にかかわったことによって訪問時本人の攻撃性が止まった どこか場所を設定したわけではないが家族と関係職種で話し合い関わりを持った	

(4) 組織・地域への支援

テーマ「組織・地域への支援」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 13-1、表 13-2 に示すとおりである。両地域に共通するカテゴリとして「メンバーと顔をつなぎ、連絡をもたえる関係を作っておく」「組織化や社会資源の開発が重要である」がみられた。

羽曳野市に特徴的にみられたカテゴリとしては「見守り組織が出来上がっている」「個別対応にメンバーが動くように関わる」が挙げられた。泉南市では「見守り組織が十分ではない」「個別対応にメンバーと一緒に動く」というカテゴリがみられた。

表 13-1. テーマ「組織・地域への支援」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野	泉南
組織・ 地域へ の支援	<p>メンバーと顔をつなぎ、連絡をもらえる関係を作っておく</p> <p>民生委員に対し元気なときから地域で顔をつないでいくことが大事である</p> <p>民生委員と連携の構築が重要である</p> <p>民生委員との関係づくりの上で見守りネットワークは重要である</p> <p>信頼関係できれば民生委員と共同で見守りできる</p> <p>できる限り行事に参加し民生委員と信頼関係を作ることが相談窓口として必要である</p> <p>なにかあったときが一番密接にかかわるのは近所の人か民生委員だと思う</p>	<p>メンバーと顔をつなぎ、連絡をもらえる関係を作っておく</p> <p>メンバーと包括が顔の見える関係を作って通報をもらえるので動ける</p> <p>何かあった時に包括の職員の顔がぱっと頭に浮かんでくれるような関係を作る</p> <p>存在を思い出して連絡してもらうことで最悪のことは防げる</p> <p>地域包括支援センターという組織を知ってもらう時に困った時に動いてくれるということを伝える</p> <p>会合や地域の催しに行ってお話すれば相談してくれるようになる</p> <p>介護予防教室に来る高齢者は来られない高齢者の情報をいっぱい持っている</p> <p>「いつか何かあったら電話する」といわれる包括でありたい</p> <p>近隣だから介入しかねる場合包括に通報してもらいたい</p> <p>「あの人に相談したら大丈夫」と思われるように根気強く付き合う</p>
	<p>見守り組織が出来上がっている</p> <p>ネットワークや見守ができる世の中になればよい</p> <p>ケースの前にネットワークの仕組みがもともとあった</p> <p>未然に防ぐにはどうしたらいいか、発見したらどうかわるか組織それぞれが考える必要がある</p> <p>一人が抱え込むのではなく助け合ってみんなで見守ることが大切である</p> <p>区長同士の関係がうまく築けず孤立していると見守りネットワークがうまく機能しない</p> <p>仕組みとして、ネットワークに関連している医師に連絡して医師会としての協力を取り付けるようにまでなっている</p> <p>迅速な対応をするためには役割を明確にしつつ協働していくことが重要である</p>	<p>見守り組織が十分ではない</p> <p>市や社協でいろいろな仕組みを作ろうとしているがうまく機能していない</p> <p>民生委員を中心に「お元気コール」という連絡網体制を作っているところもある</p>

表 13-2.テーマ「組織・地域への支援」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野	泉南
組織・地域への支援	<p>組織化や社会資源の開発が重要である</p> <p>高齢者に限らず地域の組織化をしたいと思ってる</p> <p>ネットワークは地域で見守る雰囲気づくりに必要な活動である</p> <p>各校区、各地区に地域活動が広がっていく啓発ができればと思う</p> <p>広く人を集めて見守りを行いたい</p> <p>近隣の人から情報を得るための啓発をしていく</p> <p>早期に支援する体制を構築する</p> <p>定例会では地域の各職種がコミュニケーションをとりやすい体制を作り、一緒に考えていきたい</p> <p>定例会議では民生委員に寄り添う位置づけしている</p>	<p>組織化や社会資源の開発が重要である</p> <p>地域に社会資源を作っていくのも包括の役割であると思う</p> <p>在介の本来の仕事は地域を知り社会資源を開発することである</p> <p>地域での受け皿があることで安心してもらう街づくりにしないとイケない</p> <p>行政も難病の人が家で過ごせる資源を作っていないとイケない</p> <p>安心して在宅で過ごせるというものがないと患者や家族は在宅療養に踏み込めない</p>
	<p>個別対応にメンバーが動くように関わる</p> <p>介護サービスが入る前から民生委員の活動として支援してもらった</p> <p>孤立しても自立している高齢者には民生委員から様子を見てもらう</p>	<p>個別対応にメンバーと一緒に動く</p> <p>地区のケア会議では地域の人ばかりが入っていて困っている人を抽出する</p> <p>悩む段階で相談に来てくれたら何らかの手立てを選べる</p> <p>だれがどういう風に説明するか想定しておかないと結果が悪くなってもいけない</p> <p>サロンで情報提供してくれた人と一緒に状況把握しに行く</p> <p>メンバーから情報を聞いたら行ってみる</p>

(5) 支援の困難な点

テーマ「支援の困難な点」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 14-1、表 14-2 に示すとおりである。両地域に共通するカテゴリとして「高齢者が支援の必要性を感じず介入できない」「独居である限り孤立死予防は難しい」がみられた。

羽曳野市に特徴的にみられたカテゴリとしては「情報把握後どうするのか難しさがある」「支援する機関に高齢者はアクセスしにくい」「家族と共通認識が持てないとうまくいかない」が挙げられた。泉南市では「情報を共有できない」「高齢者や家族が支援者に問題を隠す」「集合住宅の人はつながりが希薄で見守りがいきわたらない」「見えない虐待は対処しにくい」「支援が必要な高齢者の情報を聞くと近隣住民が不安になる」「活動が不活発な地域は組織がない」というカテゴリがみられた。

表 14-1. テーマ「支援の困難な点」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	羽曳野	泉南
支援の困難な点	<p>情報把握後どうするのか難しさがある</p> <p>気になる事例を把握したとき地域でどうするのか、難しさがある</p>	<p>情報を共有できない</p> <p>見守りの問題を考えるときにどこまで何を言っているのか言う相手を考える</p> <p>個人情報保護の壁で民生委員と情報を共有できない</p>
	<p>支援する機関に高齢者はアクセスしにくい</p> <p>支援する機関はいくつかあるがそこになかなか高齢者はアクセスしにくい</p>	<p>高齢者や家族は支援者に問題を隠す</p> <p>旧村のような血縁の強い地域ほど問題を隠す</p> <p>見守り活動が不活発なA地域はプライドが高い</p>
		<p>集合住宅の人はつながりが希薄で見守りがいきわたらない</p> <p>マンションの人は近所づきあいを好んでいない</p> <p>マンションや団地は近隣の付き合いが薄いので隣の家の名前すら知らない</p> <p>分譲マンションでも他人に貸しているとだれが住んでいるのかわからない</p> <p>団地は「隣は何しても関係ない」みたいところがある</p> <p>団地に来る人はあちらこちらから来るので把握しにくいところもある</p> <p>団地特有の環境がどうしても見守りがいきわたらない</p> <p>団地では孤立死はすごく多い</p>
		<p>見えない虐待は対処しにくい</p> <p>親子関係があるので関わりが難しい</p> <p>介護放棄、年金搾取など見えない虐待は対処しにくい</p>
	<p>高齢者が支援の必要性を感じず介入できない</p> <p>本人自身が生活が苦しいと思うときようやく地域や行政と関わりが持てる</p>	<p>高齢者が支援の必要性を感じず介入できない</p> <p>家族は助けてほしいと言ってくるが本人が頑として「嫌だ」と言う</p> <p>見守りが不活発な地域では教室を行っても高齢者は出てきてくれない</p> <p>隣近所との付き合いを嫌う集合住宅の高齢者は介入を拒む</p>
	<p>支援が必要な高齢者の情報を聞くと近隣住民が不安になる</p> <p>家族の理解があっても高齢者の情報を近所に知らせると近所の人の方が不安になる</p>	

4.まとめ

1)見守り組織の地域住民へのインタビューの質的分析結果

泉南市と羽曳野市における見守り組織の地域住民へのインタビューの質的分析の結果より下記のことが示された。

(1) 孤立死のとらえかた

孤立死のとらえかたについては、いずれの市においても元気な人でも一人でも急に亡くなることもあることが挙げられていたが、羽曳野市では見守っていても孤立死を完全に防ぐことができないことなど見守りの限界を示す内容が挙げられていた。

(2) 孤立死発見のプロセス

孤立死発見のプロセスについては、いずれの市においても新聞がたまっていて孤立死に気づく、孤立死をした高齢者は死後、家族と連絡がとりにくいことなどが共通に挙げられていたが、羽曳野市からは電気のつけ放しや雨戸のあけ放しなどによって孤立死が発見されるなどより具体的な内容が挙げられていた。

(3) 見守り対象となる高齢者

見守りの対象となる高齢者像については両者とも明らかな違いはみられず、見守り対象となる高齢者像として、人に頼ろうとしない、人とのつながりを拒否するなど人との交流の点で問題があると考えられる内容が豊富にみられていた。見守り対象となる高齢者の基準を考える上では高齢者の周囲の人や家族との交流状況は見逃せない内容であることが示唆された。また、火の不始末をするなど認知機能低下による問題行動がある高齢者も見守り対象となることが示唆された。

(4) 見守りのテクニック

見守りのテクニックについて、泉南市は見守りの具体的内容が多く挙げられていた。また、対象者と関わった期間が長いほど見守りしやすいととらえられていた。羽曳野市は見守りがシステム化されており、見守り頻度や基準、管理の方法について詳細に定められていた。

(5) 見守りのための組織作り

見守りのための組織作りについて、泉南市は見守り組織づくりの途上であるために、見守りの役割は近隣住民が担うべきであると考えられており、住民への期待が高かった。こうした背景に、転入者が多いといった、地域づくりの特徴が影響を及ぼしていると考えられた。羽曳野市は、見守りは地域の担当職種（民生委員）の職務であるにとらえられていた。組織間の連携について、羽曳野市は「ふれあいネット雅び」という既存の見守りネットワーク組織があるために行政や住民組織間、地域包括支援センターや専門職等、他機関の連携について多岐にわたって述べられていた。泉南市は、住民とかかわりの深い地域包括支援センターの連携について主に述べられていた。このように、地域の既存ネットワークの有無により、他機関との連携について住民の認識が異なることが示された。